

1学年通信

Dreams come true

米沢興譲館高等学校

1学年 第14号

2015.8.4 (火) 発行

暑中お見舞い申し上げます

学年主任 横山 伸一

毎日暑い日が続いていますが、生徒の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

7月31日(金)全日本吹奏楽コンクール山形県大会が「山銀ホール」で行われました。米興吹研の発表は高校の部ラスト前の17:30からでしたが、何とかその前の酒田東高校の演奏から聴くことができました。酒田は私が教員のスタートから11年住んだ町です。当時、私は子育てをしていましたが、その息子の同級生が演奏しているかと思うと感慨深いものがあります。また、指揮者の高橋先生は酒東のOGであり私の同僚でもあった方です。港町酒田らしい自由で大らかな演奏が印象的でした。高校の部最後の演奏は鶴岡南高校です。鶴南は東北大会の常連であり大いに注目される高校です。個々人の演奏技術が高レベルであり、重厚で深みとパワーがあり伝統校の貫録を見せつけました。ちなみに指揮者の蛸井先生は、私と採用同期で明新館や山形南でも素晴らしい指導をされたカリスマ的指導者です。鶴南は学問を大切にす文化が根付いており、学びも部活動も絶対負けないというプライドを感じます。残念ながら聴くことはできませんでしたが、長井高校の演奏も大変良かったとお聞きしました。55人の大編成をまとめたS野部長と本校のOBである戎谷先生に拍手です。

米興吹研の演奏です。私はコンクールで地区大会&県大会を聴いたのは今年が初めてです。なぜ聴きたいと思ったか。それは1年生諸君への激励もあります。それと、現3年生が一途に頑張ってきた軌跡を3年間傍らで見てきたこと、その3年生が常に爽やかに挨拶をしてくれるなど礼儀をわきまえた素晴らしい生徒達だったからです。つまりは彼らの「力になりたい」と強く思われたからです。ちなみに、その演奏は地区大会の何倍も素晴らしいものでした。よくこの2週間でこのレベルまで仕上げたものだと感動しました。私の中では「最高の演奏」でした。私を含めた多くのOB・OG諸君、保護者の方々、満員のホールの聴衆の皆さんが盛大な拍手を送りました。誰が何と言おうとも最高の演奏です。3年生諸君、本当にありがとう！



もう夜と言っていい18:30。結果発表が行われます。どの高校も素晴らしい演奏であり、その努力は比べるものではないと思いながら、米興吹研の東北大会出場を願います。学年通信13号に寄稿頂いた土井先生の言葉が思い出されます。

(前文略)そこで新聞やニュースを見ていると、「番狂わせ」という言葉を目に(耳に)することがあります。「勝負などが想定外の結果になること」をそう呼ぶのだそうですが…、この言葉、わたしは好きではありません。少なくとも、吹奏楽においては番狂わせなんて存在しません。真摯に音に向き合って、練習した分だけ伝わるのが吹奏楽で、音楽のいいところ。そこに想定外なんてことは無いのです。だからこそ、たったの12分間という短い演奏時間のために、膨大な時間と想いを詰め込みます。コンクールは、その練習の成果と想いの熱量が問われる場所です。

米沢興譲館高校は銀賞でした。5つの高校が金賞を獲得し、4つの高校が東北大会へと進みました。勝負は残酷です。おそらく吹研諸君が望んだ結果ではなかったことでしょう。もちろん、私も残念でしたが1つ思うこともあります。「結果を待つアナタの気持ちはどうでしたか」ということです。私は中学校3年間、現川西中の前身である新山中(シンザン中と読む)で吹奏楽部でした。このとき金賞を得たことが2度ほどありましたが、そのときの心境は「山形県で自分達以上の練習をした中学生はいないんだから金賞は当然」だったように記憶しています。生意気な感じもありますが、1年間で350日練習したのですからおそらく県ではNo.1の練習量だったでしょう。また、高校2年生で東北大会出場を決めたとき(私はその年だけ賛助したのですが)仲間達があれだけやったのだから東北出場は当然と確信していました。学年通信No.8に書いたように、今年の男子ホッケー部の県優勝もしかりです。つまり何事においても想定外や偶然の結果はありません。ただそれまでの「道のり×熱い思い=結果」です。

今アナタは暑い暑いと言い訳ばかりしていませんか。そんなメンタルでは決して最後に勝てません。それは部活動も「学びの道」も同じです。同じ県内でもライバルである山形東、山形西、鶴岡南、酒田東、新庄北、長井など他の高校1年生も「夢実現」に向けて努力しているはずです。学年集会でみんなに「1年生の夏休み前までに、志望を確固たるものにし、受験生として覚悟を決め、日々努力を続ければ99%希望は叶う」と話しました。もう8月ですが、日々きちんと道のりを歩いていますか、熱い思いで臨んでいますか。これを読んで、少しでも反省と後悔があるならば、今日から正しく歩きはじめましょう。これが私達米興生の生きる道です。

川西町・南陽・高畠地区保護者会、ご参加ありがとうございました！

6月26日（金）川西地区保護者会が行われました。そのときの話題に「米坂線は帰りの電車が18時と20時台の2本です。その間に学校で勉強できますか？」という質問がありました。そこで、部活動と学校での学習についてお話いたします。部活動は基本的に「18時まで」です。大会前の2週間に限り特別に19時まで延長可能ですが、通常はどの部活動も18時には終了しますので、米坂線 南米沢駅発 18:32 には徒歩であっても十分間に合います。帰る前に先生に質問したいとか、学校で学習したいという場合には 19:30 まで可能です。ただし学習場所は「大多目的教室」に限ります。それは物理的には電気代節約のためですが、大学受験を控えた3年生の学ぶ姿勢を見て知ることも大切だと考えるからです。テスト期間中や休日、夏休み中も 8:30~16:30 は大多で学習可能です。なお 8月8日（土）以外はお盆中も含めて登校学習可能です。予定表は大多の入口に掲示してありますので確認して下さい。

7月3日（金）南陽地区保護者会が行われました。この席上「1学年通信や米興ホームページ、メールサービスで学校の様子がよくわかるので今後も続けてほしい」という話を頂きました。入学式の「保護者・生徒・教職員が一体となった日本一の学年を目指す」という目標達成のためには、3者相互の交流と情報交換が何より大切だと考えています。6月25日（木）の学年合同懇親会には100名を超える保護者の方からご参加頂きましたし、南陽地区の保護者の参加についても、保護者の部においては現在日本一でございます。学年通信は今のペースを続けていこうと（結構厳しいけど）意気込んでいますので、こんな情報があればいいなどの要望がありましたら遠慮なく学年団までお話し下さい。

7月10日（金）高畠地区保護者会が行われました。こちらも保護者の方から多数出席頂き、たくさんのお話やご意見を頂くことができました。その1つが「朝のJR本線が2両編成で詰り状態です。何とか増両を要望して頂けませんか」ということです。我々教職員は毎年、保護者役員の方とともに朝夕の列車に同乗し、生徒の乗車状況を理解することに努めています。確かに現在の朝の本線は大変厳しい状況です。JRには機会あるごとに要望しておりますが中々改善されません。これからも高校側から要望を続けていきますが、できるなら高畠地区保護者の皆様や生徒達から声をあげてもらうことも有効だと考えます。南陽地区から乗車の生徒も同様でしょうし、本校だけの問題でもありません。自分達の身近な問題に声をあげていくことも大切なことだと考えます。今日、明日に解決できることではないかもしれませんが、未来の子供たちのためにも、今できることを皆で考え実行していきましょう。2学期の課題です。

～この夏の過ごし方・学習姿勢～

7月24日~26日の2泊3日、蔵王で合宿を行いました。その感想については学年通信 No.12 でお伝えしたとおりです。なお、No.12 については「全て手書き」の原稿ゆえ読み取りがうまくいかず米興HPへの掲載を見送りました。欠番となっておりますのでご承知置き下さい。なお、ここで合宿を共にして感じたことを、徒然なるままに書いてみようと思います。

<食べること>

合宿に参加した51名はよく食べました。宿舎である「ロッジドッコ沼」の方が驚く位なので本当にそうだと思います。そのこともあってかこの3日間、1日12時間以上の学習で誰一人体調不良の生徒はいませんでした。この夏、部活動で1日中グラウンドにいと体調を崩す生徒がいますが、話を聞くと「朝ごはんを食べていない」場合が多い。暑さゆえ、食欲が落ちることは理解できるが、夏の1日を部活動・学び etc.に全力で取り組むならば、そのエネルギーとなる食は大切です。また、食が満ちていないと快眠も得られず、つい夜更かしになり、朝起きられずに、また朝ごはんが…、という負のスパイラルに陥ります。「それは私かもしれない」と感じた人は、今からでも遅くないので改善することです。夏こそ、よく食べよ！

<学びの姿勢>

何十年間と生徒を見ていると、よく伸びる生徒とそうでない生徒がいます。その一因に思える事があります。それは集中力です。以下、良くない例を挙げてみます。**例1**「音楽を聴かないと勉強できない・他人の声や音が気になる」。これは多くの米興生が当てはまるかもしれません。音楽が学びの一助になるという研究もあるのですが、少なくとも大学入試本番は「音楽無し」です。部活動では常に公式戦のイメージが大切なと同様、学びも常に実践と同じ環境で行うべきです。また、真に集中したときは周囲の雑音など気にならないものです。少なくとも、気になっているようでは本物では無いと思うべきです。**例2**「右利きの人が左手を机の上に置いていない」。これは真の命題と断言できます。人は「両手の間が唯一集中できる空間」であるからです。片手で針に糸を通すのは至難の業であるように、右手で書き読むときには必ず左手を本やノートに添えるべきです。**例3**「飲み食いしないと学べない・1人で学べない」。食べ物や他者への依存体質はフロイトのいうところの口唇期に問題があるかもしれません。と言っても、今さら仕方無いので自制することに努めましょう。もっと書きたかったのですが、ここで字数が尽きました。約4300字を打った私も、実はパソコンや他者への依存体質なのかもしれません。少し自制しないとイケませんね？共に考え成長できる夏休みにしましょう！